

大牟田市総合計画審議会(第3回)会議摘録

- ◆ 日 時 平成31年3月25日(月) 18:00～19:30
- ◆ 場 所 大牟田市役所北別館第1会議室
- ◆ 委員出席状況 出席15人、
欠席5人

◆ 議 事

1 報告

(1) 大牟田市まちづくり総合プラン(案)に関する意見及び質問

・事務局より下記について説明

- ①今後のスケジュールの確認
- ②委員からの意見・質問について
- ③委員からの質問への回答

委員 5月から始まる部会とは？

事務局 「計画の推進」を入れた6本の編について、すべてを全員で審議するのはかなり大変なので、審議会を二つの部会に分け、それぞれ3つの編についてご審議いただく。1日で二つの部会を同時刻別々に開催する。8/27の部会とりまとめの際に、自分が入れなかった部会の施策についても意見を述べていただけるようにしている。部会では担当部局も呼んで深く議論していただけるようにする。部会の編成は次回審議会で行う。

委員 小中学校の学力について示されていないのはなぜか。福岡県内は公表していないのか。保護者としてはやはりランキングが気になるところ。

事務局 大牟田市だけではなく、福岡県も公表していない。保護者としてランキングが気になることは理解するが、子供の学力をランキングだけでは測れないので、知・徳・体のバランスが取れた教育を行っている。また、毎年テストの難易度が異なるので正確なランキングを測れないということもある。

2 議事

(1) まちづくり総合プラン（案）について

- ・事務局よりプラン（案）を説明

①第6次総合計画まちづくり総合プランの構成について（案）

質疑・意見等特になし。

②第6次総合計画の将来の目指す都市像及び基本目標について（案）

③目指す都市像と基本目標（案）

委員	人が中心、人づくりが重要との考え方が重要というのは理解するし、耳触りも良いが、どうにもぼやっとしている。こういった人材を育てたいという、具体的な人づくりの指標がない。
事務局	人づくり、人材というものはいろんな場面、いろんな分野にまたがっており、一律に設定するのは困難。たとえば第5次のP30の指標「将来に意欲を持って取り組もうとする中学3年生の割合」のように、いろんな施策にちりばめている。
委員	資料3の「1. 第5次総合計画の都市像及び基本目標設定時の経緯について」の2行目「大牟田の強み」とは？
事務局	第5次総合計画策定時にワークショップにおいて、「大牟田の強みや本市の特徴などをテーマとした話し合いの中で、いただいた本市の強みのことを述べている。
委員	都市像、基本目標については第5次とあまり変わらない、と理解する。そのなかで、今回変更があったキーワードが重点課題ということか。
事務局	都市像と基本目標はセットもので、長期的な観点で特に何年後ということを設定しているものではない。今後、基本計画部分で各施策の審議に入っていくが、そのなかでより細かく課題を整理し、これから4年間で重点的に取り組むことなどを決めていくことになる。

④土地利用の方向性（案）

- ・事務局より土地利用の方向性（案）について説明

都市像・基本目標まで審議され、次の基本計画の具体的な審議に入る前に土地利用についての共通認識を得るための項である。

- 委員 コンパクトシティの方向性は確かにそうと思うが、今後の議論では、空き家数や東西方向の道路整備の計画などについても具体的な数値等を示していただきたい。
- 事務局 空家数、公共交通網形成計画など関連計画については次回示したい。
- 委員 耕作放棄地が増えているのは高齢化や人口の減少が原因と思う。市街化調整区域については農業以外では売買しにくく、この縛りがある以上、資料5 土地利用の方向性（案）の最後の行「地域の実情に応じた計画的な土地利用」の実現は難しいのではないか。そういったことへの対策も盛り込んでおいてほしい。
- 会長 10年くらい前に東北地方で雪国における都市の分散対策として中心部への集約を進めるコンパクトシティが流行ったが、大牟田は雪国でもないし面積も狭い。大牟田のコンパクトシティのイメージは？
- 事務局 人口減少の中で、都市活力を維持するために国交省から考え方が示され、全国で計画策定などが進められている。本市においても、人口減少が進む中、道路や橋梁、上下水道などをどの範囲まで整備していくのかといったことを念頭に検討をしている。コンパクトシティ・プラス・ネットワークという観点では、中心市街地1ヶ所に向けてではなく、地区公民館がある地域をベースに、いくつかの拠点地域を設定しこれをネットワークでつないでいくイメージ。次回、立地適正化計画や都市マスタープランの資料を示したい。
- 委員 新栄町駅前地区再開発の状況は？これからのまちづくりに非常に重要と考える。
- 事務局 新栄町駅前地区再開発は、行政ではなく組合施行による市街地再開発事業。組合が建設業務代行者を選定する。その代行者二社のうち、芝浦グループが撤退し、事業が止まっている状態。準備組合の意向を

受けて、市としては再度、事業採算が取れ、再開発事業を進めるために地区再生計画を平成 31 年度に策定するようにしている。

・全体を通しての意見及び質問等について

事務局

(まちづくり総合プラン P12、基本構想部分の人口について補足説明)
これまでに基本構想部分の(案)をお示ししてきたところであるが、基本構想の人口の部分についてはお示しできていない状況である。この人口の部分というのは、国の地方創生の動きと関連している。国の地方創生の方針を示している、国の総合戦略が来年度改訂となる予定である。総合戦略と人口の将来ビジョンについて国が検討を進めている段階であり、各自治体に対してどのような作業をしてくださいという指示があっていない状況である。第 5 次で示している将来人口推計のグラフは、国が作成しているワークシートを活用して作成したものである。そのため、国の動きが確定しなければ作業に取り掛かれない状況である。来年度早々に示されると期待しており、国の動向を踏まえて事務局で検討し、審議会で諮っていきたいと考えている。

委員

人口減少に伴い行財政の状況が良くないといっているのに、まち全体の地域商社、稼ぐまちについてどう考えているのかが、気になっている。近隣の 1～2 万人規模の自治体では、地域商社、行政が出資して財団や民間、第三セクターなど色々の形で、地域商社としてまち全体稼いで収入を得ていく方向が全くないため気になるところである。

事務局

大牟田市では、現状としては地域商社の取組みに至っていない状況である。稼ぐまちということでいくと観光によって交流人口を増やし、大牟田でお金をおとしてもらう仕組みが必要と考える。例えば観光分野ではた一んとよかところ協議会を立ち上げたり、民間の力を借りながら、お金がまわるような仕組みをつくっていきたいと考えている。

委員

お金がないと言っているのにいつやるのか疑問。これまでずっと削る方向できた。まちづくり総合プランで述べられていないのが気になる。観光以外でも、例えば宮崎県の新富町では国産ライチを 1 個 1,000 円で売って 2018 年度の収入が 20 億円位、ふるさと納税を活用して 6% その財団にお金がおちて運営資金にしている。準備会を立ち上げて

いるのであれば、これからの審議会でも議論に乗せていいレベルではないかと考える。

地域商社なども考えられるのではないか。

委員

たーんとよかところ協議会でこれからの観光について検討しているが、民だけでは難航している。市の観光基本計画はH14のままであり、国が観光立国を打ち出す中、世の中の流れから遅れている。インバウンドを積極的に受け入れるのかの方針もよくわからない。世界遺産があるだけではお金は落ちない。ホテルも必要。市の税収減が見込まれるなか将来をどう考えるかという、観光客などの流動人口で落としもらうしかないのではないかと思う。

委員

市民意識調査では「子育て」「教育」「産業の振興」はいずれも重要度が高いが、一方でスポーツや文化は極端に低い。まちが発展し豊かになることも必要だが、人が豊かに暮らすにはスポーツや文化も大事。基本目標の1～3にもかかることであり市民の意識を上げていくこと必要。

3 その他

・次回：4月9日（火）18時より同じ場所で開催

以上（19：30）終了